

## 春日町図書館 図書館利用者懇談会

- 1 日時 令和7年11月3日(月) 14時～15時半
- 2 場所 春日町図書館 2階 会議室
- 3 参加者 利用者 13名  
図書館 3名  
(春日町図書館長、館長代理1名、書記1名)
- 4 テーマ 「地域における春日町図書館の役割とは」
- 5 配付資料 (1) 教育要覧(令和7年度図書館部分抜粋)  
(2) 主な春日町図書館事業 6年度下半期～7年度上半期  
(3) これからの図書館構想概要  
(4) 春日町通信(11月号)  
(5) feel me(7月号)  
(6) 利用者懇談会アンケート  
(7) 春日町図書館オリジナルしおり
- 6 次第 (1) 春日町図書館長挨拶  
(2) 図書館職員紹介  
(3) 図書館概要説明  
(4) 懇談  
(5) 春日町図書館長挨拶

### 春日町図書館利用者懇談会 会議録

#### 1 春日町図書館長挨拶

私から、一言ご挨拶をさせていただきます。春日町図書館の館長を務めております田村と申します。日頃より地域の皆様、利用者の皆様には春日町図書館の運営にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。今回懇談会のテーマを「地域における春日町図書館の役割とは」に設定させていただきました。これまでも地域に根差した図書館運営を念頭に置き、様々な取り組みを通じて、地域の方々との関係を深めてまいりました。この懇談会では、みなさまからこれからの春日町図書館について、様々なご意見・ご要望をいただき今後の参考とさせていただきたいと考えております。

直接ご意見を伺える今回のような機会は少ないので、ぜひ、和やかな雰囲気の中、色々なお話が伺えたらと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

なお、今回の懇談会ですが、お時間を15時半までとさせていただきます。また、館独自では

回答が難しい区立図書館全体に関することについては、光が丘図書館にその内容を伝え、後日、光が丘図書館と調整の上ホームページで回答させていただく予定です。

また、宜しければ11月20日（木）に行われます、光が丘図書館での懇談会にご参加のうえ、質問をしていただければ、適宜回答があると思います。それではどうぞよろしく願いいたします。

## 2 図書館職員紹介

春日町図書館長、館長代理、書記

## 3 事業紹介等

- (1) 教育要覧抜粋の図書館の所蔵資料数、利用状況の紹介  
所蔵資料数、利用状況等  
個人貸出点数 42万8934点、個人貸出予約点数 13万7283点  
対面朗読の利用時間数 330時間 会議室の利用件数 280件  
ギャラリー利用日数 28日
- (2) 6年度下半期から7年度上半期の主な春日町図書館事業について
  - ・地域、関連施設との連携事業
  - ・練馬区との連携事業
  - ・ギャラリーを活かした事業
  - ・各種講座、読書支援事業
  - ・ハンディーキャップサービス事業
  - ・ボランティアとの連携事業
  - ・その他子供向け青少年向け事業
  - ・情報発信
  - ・学校支援事業
- (3) 8月の空調不具合について、練馬区施設予約システムについて

## 4 懇談

**図書館** それでは出席されているみなさまに自己紹介をしていただきたいと思います。

**利用者** ねりま若者サポートステーション、春日町青少年館の3階にあります。厚生労働省がやっている就労支援機関の所長しております。よろしく申し上げます。春日町図書館とは、職場体験という名前ですが、実際には困ったときにお手伝いに行くような関係を続けております。それがとても役に立った、という若者の良い体験になっております。

**利用者** 春日町青少年館の館長です。すぐ近くの建物になります。そちらで障がい者の青年学級というものがございまして、大体200名弱の障がい者が毎週日曜日に週替わり

でいらっしゃって活動しているんですけども、1年間の活動の集大成をこちらの図書館のロビーの方で展示をしています。そういう場を設けさせていただいているということで、(事業報告の)写真にも載っているところがございます。今年度もまた2月に展示を行う予定でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

- 利用者** 春日町リサイクルセンターで所長をしております。よろしくお願いいたします。春日町リサイクルセンターはちょっとここからは離れているんですが、平和台の近くにございます。ご利用された方も、もしかしたらいらっしゃるんじゃないかなという風に思いますが、リサイクルセンターは環境学習というところに重きを置いて、区民の方に向けて環境スリー Rですとか そういったところに焦点をあてて講座ですとか、家具販売 …もともと捨てられてしまった家具ですとか、お家でいらなくなった小物を回収して、区民の方々に提供しているというような施設になります。図書館さんとは、今度の日曜日にうちのセンター祭りというものがあるんですけども、そちらにリサイクル図書市というものを来店していただいたりと、さまざまな連携をしているような形になります。今日はどうぞよろしくお願いいたします。
- 利用者** 春日町南地区区民館の館長です。よろしくお願いいたします。この(図書館の)裏手の方、同じ 5丁目の中にある施設でございます。建物の中に、乳幼児施設びよびよというのがありまして。そちらにおはなし会に来ていただいています。それから僕が2回くらいこちらで人形劇をやらせていただいております。よろしくお願いいたします。
- 利用者** ねりまおはなしの会です。練馬区内の学校や保育園、図書館などで子どもたちに素語りを聞いてもらっている会です。春日町図書館さんとは、毎週行われている。水曜日の午後おはなしっぱいの部屋(おはなし会)で、子供たちにお話を聞いてもらうことと、毎年 11月23日大人向けおはなし会をこのお部屋でさせていただきます。ご興味のある方はぜひ参加してください。
- 利用者** 学校図書館を考える会ねりまです。練馬区内の学校図書館の充実を願って学習会などの活動をしています。こちらの図書館をお借りして委託講座を開かせてもらいました。また団体貸出などでお世話になっております。
- 利用者** (資料)図書館事業の中の練馬区との連携事業の一番上、ブックスタートをこちらの会場を借りて実施しております。春日町ブックスタートの会の代表をしています。図書館に赤ちゃんが来るようになって20年ですね。それまでは赤ちゃんが図書館に来るなんてことは考えられなかった時代です。今はベビーカーも図書館にとまっているし、0歳の赤ちゃんをもつお母さんたちが図書館で本を借りたり読んだりできる時代になって、すごくいい時代になったなと思います。ブックスタートというのは、練馬区で生まれたすべての赤ちゃんに絵本を 2冊プレゼントして、絵本を読んだり、わらべうたで遊んだりする。その語りかけの大切さを保護者の方にお

伝えして、赤ちゃんとの心が通うような、言葉のコミュニケーションをとっていただけると、きっかけをお勧めする場となっています。(資料)その下の絵本と歯ブラシで親子のコミュニケーションも、こちらの会場でやらせていただいています。そういう意味で、赤ちゃんを図書館に迎えるにあたって、図書館さんと色々話し合いを重ねていろいろご協力いただいています。よろしく願いいたします。

**利用者** ねりま地域文庫読書サークル連合会です。練馬区の家庭文庫、個人のお宅で文庫をひらいているとか、保健所にある文庫とか、それから一般の個人会員の方々がメンバーになっている。略して練馬文庫連と申します。私はその中の読書サークル「子どもの本の会イングルサイド」に所属してまして、区立の図書館と一緒に読書会を開いたりしています。それから、春日小学校の図書館開放指導員というのをしています。練馬区の小学校41校で土日祝日や平日の放課後、夏休みなど、そういう時に図書館の本を児童や近隣の方々にご利用していただくという事業なんですけど、そういう活動のお手伝いもしています。どうぞよろしく願いいたします。

**利用者** 特に肩書きはないですが、区報で見て参加させていただきました。自己紹介と事業案内を見せていただいて、広範囲でいろんな事業をしてることを勉強させていただいたんで、非常に来たかいがあったと思っています。よろしく願いいたします。

**利用者** 光が丘に住んでいます。光が丘には練馬区の中でも大きな中央館的な役割を果たす光が丘図書館があるわけですが、そこで利用者の会というのやっています。図書館とは、ということはずっと考え続けておりますので、こういう機会があったら図書館を見て歩きたいなというのがあります。特に関心を持っているのは、中高生世代に向けて図書館がどういう取り組み、企画をしているのかということで、春日町図書館はかなりユニークな学習コーナーを設けたりと、先進的な働きをしているなと思っています。後でまたその辺のことをお聞きしたいなと思っています。よろしく願いいたします。

**利用者** 肩書きはないのですが、定期的はこちらを利用させていただいて、今日こういう会があるということで、お邪魔させていただきました。いろいろ皆様のお話を伺えればと思いますので、よろしく願いいたします。

**利用者** 視覚障がい者で、対面朗読というサービスを、貫井図書館で2日、それからこの春日町図書館で2日利用しています。2館利用しているのは、直営でやっていた時代から春日町図書館は障がい者サービスのシステムができあがっていて、ずっと利用しているからです。貫井在住なので、歩いて来るには70分 80分ぐらいかかります。貫井図書館に行くにも30分 40分かかかるようになる。練馬区は人口の多い大都市のはずなんだけど、図書館に行くのにこれだけ時間がかかっている。多分ヨーロッパだと(同様の規模の都市で)30館とか40館ある。これだけ図書館の数が少ない、あるいは図書館のサービスが貧弱だというこの意識は、日本ではあまり感じない…日本人全体がですね。幼稚園や小中学校に対するサービスも貧弱。もっと諸

外国のことを学んで、日本の図書館も社会教育の主たる担い手として大きな役割があるんだと、しっかりやってほしい。

**利用者** ガイドで参りました。あまりよくわからないですが、なんとか頑張って、耳をそばだてて、何か身につけたいと思っております。

**図書館** ありがとうございます。それでは、ここまでご説明させていただいた中で、ご質問等があれば、ご発言をお願いいたします。いかがでしょうか。

**利用者** 子供たちへの、例えばよみきかせとか、おはなし会とか、紙芝居とかやってくださる方々に、ぜひお願いしたいのは、日本では、たくさんおはなしをして面白かったねっていうところで終わると思うんだけど。欧米ではそうじゃないんです。そうじゃないっていうのは、その後あなたは今のおはなしをどう思う？このおはなしの続きを自分で考えたら、どんなおはなしになる？とかね。要するに頭で考える力を養う。そういう本がちゃんとありますから、よく見ていただいて。子供たちに考える力を 2歳 3歳くらいから始めて、小学校中学校ももちろんそうですけど、いわゆる夏休みよくやる読書感想文を付けてやつね。字を書けない時代から、感想を言わせる・考えさせる。そういうことを身につけさせるというか。そういう社会教育の役割、学校教育ではなかなか時間が取れない。だから、学校図書館でできないことを公共図書館で補っていくしかない。これはぜひ本が出てますから。私はただ伝えるだけです。そういう時間をしっかり持っていただいて。あと大人に対しては、ビジネスサポート。これだけ駅のすぐ上にあるわけですから、英会話とか外国人に対する日本語教育とか。こういうことはこれから日本にとって、あるいは社会人にとって必要なサービス、そういうものをしっかり公共図書館はやっていく。そういう地になってほしいと思います。そうじゃないと日本はどんどん抜かれていきます。下手したら韓国の仕事、あるいは北朝鮮の仕事を下請けするしかない時代になってしまうでしょ。今はネットでどんどん知識を得られるわけですから、そういう時代になってきたのだから、余計自分で考えて、意見というかこの議論をする国、議論できる国民っていうかね。そういうものをしっかり目指して。私はもうあと何年生きられるかわかんないけど、もう生きている間は、それを言いたいと思います。よろしく。

**図書館** ご発言に向けてですが、懇談会以前にいろいろお話をさせていただいた時に、外国の方が増えてきていて、そういう方たちに向けての支援というの、図書館としてするべきではないかというお話を伺いました。今後は色々画期的な取り組みをやっていくべきだろうと思いますし、外国の方に日本語教育が必要なので、講師は区の予算で定期的開催、というお提案もいただきました。確かに、図書館近くのローソンも、外国籍の店員さんが増えましたし。日常的にも外国の方が多くなっていくのを感じてはいますが、図書館の利用者として全体的にこういった方が明らかに増えているという実感はあまりなくて。ただ、どなたでも使いやすい図書館を作

っていくという意味では、例えば言葉がわからない人でもわかりやすい図書館表示を、ピクトグラムを活用するとか。そういった形で利用しやすい環境を整えたり、限られた予算ではありますが、外国語図書の収集にも力を入れて、図書館を多くの方、外国の方も含め、利用していただいた上で、日本語の教育とかそういう分野にも着手していけたらなと思っております。なお、図書館事業ですが、お配りした資料にあるように構想の中のコンセプトに基づいた事業を企画し、実施しています。また、練馬区第5次子ども読書活動推進計画の中で、特に青少年世代への支援を重点的というのがありますので。春日町図書館では5月から青少年専用席をYAコーナーの方に設けて運用しております。また、グループ学習室とあって、担当校の試験期間に合わせて会議室を開放しています。青少年専用席については、利用している方にアンケートをとってまして、今まででほしい 20件ぐらいのアンケートを回収できました。色々なご意見がある中、大変利用しやすい、継続して欲しいというご意見も多く、あとは一人一人の机が必要というご意見もあるので、今後の参考にしたいと思っております。また、ティーンズクラブという事業も発足しまして、今まではどうしても青少年世代の事業は集客が難しく、なかなか定員に達することが少なかったのですが、今回ウェブ申し込みが始まったら、定員以上の方に申込・参加いただいて驚きました。特に青少年世代は、カウンターや、電話をかけて申し込むよりも、ウェブを通じて図書館と連絡を取れる手段が増えると、事業にも参加しやすく図書館にも来やすくなるのではないかと感じました。少し話が逸れてしまいましたが、今回のテーマ「地域における春日町図書館の役割とは」となっておりますので、今後、どのような運営が望ましいかなど、色々お話を皆さんからお聞きできればと思っております。

**図書館** 今回の懇談会のテーマが「地域における春日町図書館の役割とは」というちょっとざっくりした内容ですので、皆さまからの立場からご覧いただいた春日町図書館の役割はどんなものを希望するかありましたら、ご発言いただければと思います。いかがでしょうか。

**利用者** ねりま若者サポートステーションだとそもそも利用者が15歳以上なので、やっぱり20代以上の方が多いんですね。なので今の利用者を見ていると、子供の頃から、図書館に馴染んだ人と、そうでない人っていうのが結構分かれてるな、っていうのをちょっと思っています。サポステで個別相談をする時など、時間が余った時に図書館あるから大丈夫っていう人となかなか時間を潰す場所がないんだよねっていう人が結構分かれているなということも普段感じております。なので、そういう意味だと現状サポステだと居心地のいい図書館があるっていうのはとてもいい点であると同時に、やっぱり練馬区として、先ほどからお話であるような子供たちに図書館に馴染んでもらえるようなことをやっていただきたいなという風には思っております。

**利用者** 作品展をこちらでやらせていただいて。青少年館まで来てくださる方はなかなかいらっしやらないんだけど、ここならば駅降りて雨にも濡れずに直結で来ていただけるので。うちの館の活動も、ここで地域の皆さんに見ていただけるってところがとても、うちの館としては、メリットがあるというふうに感じております。あと地域とのつながりということでございましたが、図書館っていうと、やっぱり本とか、活字とか。そういう情報のイメージがありますけども、やっぱり地域の活動の情報の発信拠点っていう役割を果たしていただけるっていうところ、または、それを担うための工夫ということをなさっているっていうところは、とても素晴らしいんじゃないかなって思っているところです。あと、うちの館の話なんですけれども、今度改築の予定があります。一度取り壊しをして、今度は青少年館だけではなく、包括支援センターであったりとか、まちかどケアカフェが入ったりとか。もちろんサポートステーションさんも入ると、そういう複合施設ですね。年齢によって区切らない。全年齢層の皆さんにお使いいただける地域施設に生まれ変わるという予定でございます。

**利用者** 図書館利用者としてというか、本を読むという時に、社会教育とか、生涯学習とかっていう、分野で言えば、環境学習もそこに入るのかもしれないですけど。イベントとか、講座をやった時に、学んで持ち帰ってもらって、それを考えるという…そういったことが最終的な学習の目的なのかなというふうに個人的には思っている次第ではあります。ただそういったところで、僕自身も本を読む機会というのも少なくなってきたりして、そういった活動の場として、何を提供すればいいのかを考えていくべきなのかなっていうふうに思っています。個人的な興味で色々調べた時に、例えばデジタル化ってお話もありましたけども。AIが今非常に言われているというところで。例えばなんですけども、読書感想文とかね、AIに代行お願いしたらすぐできるというような現状になっているかなというふうに思います。それで、僕AIに聞いたんですよ。君、読書感想文かけるこの現状どう思います。みたいな。そしたら、使い方次第なので、僕は何も言えませんみたいな感じで返ってきたんですよ。確かに、じゃあ使わない方がいいんですかって聞いたんですね。そしたらそうじゃないと。例えば、それに対して、アプローチは色々できますって。例えばって聞いたら、この主人公がなぜそう至ったかってメモをしてもらえたら、じゃ逆にこの主人公はどうすれば、こういった課題を解決できたらどうかと一緒に考えることはできるよねっていうふうなこと提案してきたんです。例えば、走れメロスがどう行けばよかったのか。こういったルートで良かったのか。もっと喧嘩せずに、解決できた方法があったんじゃないかって色々アプローチを考慮することができるし、自分で書いたものに対して、その文面を整えることもできる。なので、使い方次第なんだよっていうことを、AIが教えてくれたっていう現状があったので、非常に勉強になったなっていう風に思いました。AIって聞くと、そんな

もの使わない方がいいよっていう方もいらっしゃいます。気嫌いするのではなくそういったものを取り入れて、一緒に学んでいくっていう機会が、もしかしたら今後求められていくんじゃないかなって。個人的な感想なんです。話がそれちゃったかもれないですけど、個人的に勉強しているところではありました。地域活性して、一緒に何かできればいいかなという風に思っています。以上です。

**利用者** 一応ご報告ということで、うちの館(地区区民館)ですね。令和 9年の一応今の計画では、5月いっぱいぐらいで休館になって、改修後10年の秋のおわりぐらいにリニューアルさせていただくということになっています。地区区民館は練馬区に21あるんですけど、それが順番に改修を毎年1館ずつぐらいやっているの、うちの館もありますっていうことは、一応ご報告をさせていただいて。先ほどですね。お話にあったおはなし会のあり方っていうので、おはなしを終えた後に、欧米では、この話をどう思うかとか、この続きはどう考えるかという。そういうディスカッションの場がね。小さい時からあるっていうお話を伺って、非常に興味深く聞いていたんですけど、それってとても難しくなっている。そういう文化がないってことなのだと思うんですけど。自分もずっと長いこと、学童保育の指導をしていたので。おはなしをやったり、紙芝居を読んだりしたさらにその後に、子ども達に感想を聞いてディスカッションさせるかっていうことは。到底今までの経験の中では、考えられないなというふうに、率直に感じたので、特に、そういう活動をされているが、どういう風に考えていらっしゃるのかお伺いしたいなと思います。あとついでに自分が人形劇の作り手として、ずっともう長年やってきている中で、自分の中でのいろんな想いを込めて作ってはいますが、それを自分が上演した後に、それ君どう思ったって聞くのもなあっていう気もします。それはもう見てくれた人が、自分の中で考えてくればいいんじゃないかなという風に作り手側としてはちょっと思います。

**利用者** 今の話の続きです。日本人の場合、夏休みの宿題で 1番嫌なのはなんだっていうと感想文を書くっていうことが、ほとんど国民、9割ぐらいの国民は(そう)思うんだよね。これも私は本を読んで知ったわけですが、感想を言わせるというのは海外の教育の基礎ですよ。3歳ぐらいから感想を言わせるということ始めて、小学校1年生になったら感想文を書かされるわけですから、自分の考えと言うものを組み立てて、その組み立てのバックボーンですね。参考文献としてはこういう本にこういう風に書いてあると。今、私は盛んに哲学の本読んでもらってるわけです。哲学を日本ではほとんど習わない。ヨーロッパ欧米アメリカも含めての高等学校や大学は、哲学をやるってことは必須科目だ。日本は選択科目でやりたい人はやるけども。一般的にはほとんど哲学に触れないで、一生過ごす人がほとんど。これは考えることをさせない教育。だから明治以降、あるいは敗戦後。日本の国民を変えていくための。だから、さっき言ったように発展途上国の図書館のあり方、あるいは教育の

あり方は知識偏重でよかった。だけど、先進国になればなるほど国民全体が自分で考える力をしっかり養って、その中から世界にむかってのイノベーションができるようなそういう国民が育ってるっていう。要するに文部大臣に言わないといけないことを、ここで言っているわけですけど。逆に言えばですね、練馬の国民の中から、だんだんそういう意見が出てくる、そういう話が当たり前になっていく時代になってほしいと願うばかりです。以上です。もう 1つビジネスサポートについて、ニューヨークの場合、外国人の就職を図書館がコーディネートしている。キャリア、学歴とか、職歴とかあるいは、個人の特性など、話を聞いて。コンサルティングする人がですね、あなたにはこういう仕事を、会社の名前とか、こういう所があるから、アプローチしてくださいって。図書館はその人材バンクの人材リストを持ってのわけですね。多分日本でもアメリカでやってるビジネスサービスに近いことが、だんだんできるようになっていくはずですよ。そこで問題はね、個人情報保護っていうのを、ものすごく図書館は気にするわけですよ。だけど、それは図書館が握ってですね。図書館で、それを利用して行くための情報であれば。これは、個人情報をしっかり保護する役割はもちろん当事者同士やらなければいけませんけど、ビジネスサポートをするひとつの手段として非常に有効だし、それを利用して、個人へのサポートが多分できると思うんです。社会教育の主たる担い手としての図書館の大きな役割の1つだし、多分、アメリカそれを相当やってるはずですよ。アメリカに限らずやらざるを得ない。社会が変わっていくわけですから、どうしたって AIに聞けばいいよっていう時代がもっと進めばいいかもしれない。今私は社会福祉協議会に頼んで、AIで私のレポートを提出すれば、3000ページとか4000ページくらいできて、AIで短縮して、さっきから言っているようなことをもっともっと、その何倍もありますけど。そういうものを新しい社会を作るためのメッセージを、あと何年生かされるかわかんないけど、ぜひやりたいので、AIをしっかりサポートしてくれる人を探してください。人材育成課じゃなくて…社会福祉協議会の中にあるんですね。ボランティアセンターというんですかね。そこで頼んでるんですけど。もう半年も前から言ってることで、誰にも手を挙げてもらえない。そんなことも含めて、図書館がAIを本当にやるそういうプロの人々ですね。利用の仕方とか、あるいは取り組み方とかそういう講演会ですとかそういうのを主催するってこともやるべき。仕事の一つだと思います。そういう社会がどんどん変化していくわけだから、社会教育の主たる担い手の1つとしては、必ずそうものは、リードしていかなければ、学校で、大学で教えるだけが、それでおしまいになっちゃえば、二十何歳、そこから先は今度は個人ですからね。社会の中の一員で。社会教育を本当にサポートしてくれるのは図書館しかないというぐらい、そういう時代なんだということをやっぱりひとりひとりがしっかり認識して、じゃあ何ができて、自分は何ができるよそういう人たちができていけば、自ずと積み上がって

いくんじゃないかと思います。

**利用者** 春日町図書館で活かしていける、他の図書館にはないものというところではロビーではないかと思う。あの場所を活かした中高生向けのイベントがあれば良くていいのではないかと思いました。今年の読書推進計画の中で青少年を図書館へ呼び込むための取り組みというのが出ていたので、利用者の会で、色々な図書館の青少年に向けてのイベントなどについて聞いて会報を作りました。その中でいろんな図書館がとてもよくいろんなことを企画しているなと思いました。ただ、それがいまいち伝わってこないなど。どうやって対象となる人に伝えていけるのかということ図書館の人が連携して考えていっていただくと、中高生の図書館利用が増えてくるのかなと思いました。それと、私も長いこと図書館や児童館などで子どもたちにおはなしをしています、感想は即、その場で聞くのではなくて、子どもたちにはおはなしを落とし込んでもらって、その後いろんなことを感じてもらえればいいかなと思っているので、感想を聞くということに対して、ちょっと、あの文化が違うのかもしれないけれども、疑問を持ちます。でも、図書館で絵本を読んでいた時に、メスのゾウがでてきて牙があったんです。そしたら子どもがどうしてメスのゾウなのに牙があるの？と質問をしたら図書館の人が色々な本を探してくれて、疑問を解決できるように調べてくれた。図書館でよみかかせをしたり、おはなしをしたりするときに、図書館の人は疑問に答えられる資料を探せるだけのものがあるので、素人のおはなしのおばさんじゃなくて、司書としての力を発揮していただくと嬉しいなと思っています。

**利用者** ブックスタートをやっている観点から、図書館の役割ではもともとなかった子育て支援という役割が今、図書館に求められているというふうに感じます。春日町図書館では、保育付きブックタイムや絵本と歯ブラシで親子のコミュニケーションなど実施していてとてもいいなという風に思いました。図書館で子育て支援なんて絶対考えられなかった内容なんですけれども、今まさに求められているというふうに思いますし、0歳のお子さんを持つ保護者の方たちがブックスタートで4か月以降初めて赤ちゃんを連れて図書館にいらっしゃるんですけども、赤ちゃんを連れてきていい場所だったという発見と図書館って楽しいところだったんだという発見、そして、未だにいらっしゃるのが、無料で本が借りられるんですねという言葉とかでも、衝撃的な話なんですけど、やっぱり今の若いお父さん、お母さんたちずっと赤ちゃんが生まれるまで共働きで、地域の図書館に足を運ぶ機会が少なく、赤ちゃんが生まれて、ブックスタートで初めて来てみましたっていう方も結構いらっしゃいます。なので、仕事をしている若い方たちが地域の図書館に来られない。時間がなくて来られないみたいな現状があるんだろうというふうに思います。図書館で、若い働く世代の人たち向けのイベントとか、何か事業をやっていたくといっても機会がなかなかないんだろうというふうに思います。呼び込むの

はかなり難しいことだなという風に感じています。それで、お子さんが生まれてから初めてきて、そこから図書館につながってくれるお子さんお母さんすごく多いように感じていますので。まずは子育て支援という意味で、希望としては、職員さんの中にそういう子育て支援のことを少し学んだ方が、何人かいてくださるといいなと思っています。

**利用者** 私は自分が関わっている事業の中で、本の探検ラリーというものがあるんですけど、カテゴリーによって分けられた本を子どもたちが読んでみようかなというものを読むというのがあるのですが、本を読むのが好きな子もいればそうではない子もいる。でも好きではなくても興味をもつきっかけというところから段階を踏んで、次に意志を持って本を選ぶ。そして意見を持って、感想を持つ。そして自分の意見を言う。そういう段階を踏んでそれぞれの児童が成長していけるように、というのがあるのでそれはとてもいいなと思います。その中で、おはなしをきいたりしたときに、自分なりの感想というのが、口に出せない子もいると思いますが、感想を持つことができるという下地になればいいなと思っています。これからもお願いします。

**利用者** 利用者の会では、中高生に対して図書館がどのようにアプローチしているのか、という視点で図書館見学をしています。会報を持ってきましたので、良ければお渡ししますのでご覧ください。あと、定期的に会報を置いていただくことは可能でしょうか。あともうひとつ、CDの所蔵はあるが再生機が練馬区の図書館には置いていないようだが…。

**図書館** 春日町図書館には3台再生機があります。

**利用者** わかりました。それを知れてよかったです。

**利用者** 難しい話が続いたのであれなんですけど、広報物を館内に置いていて、ホームページなどで見られるかと思うんですけど、他に置いているところはありますか。

**図書館** 区立施設や町会と、他にはデータでお送りしている場合は先方で印刷してもらっています。あとは学校です。

**利用者** 自分も広報をやっている、いかに一般の方々に周知するのかというのは非常に難しいところなんですけど、他の図書館との住みわけもあるとは思いますが、近くの例えば法務局とかに図書館だよりをおいてもらってみるといいかなと思いました。施設に需要があるか、というところもあるとは思いますが。あと、駅の改札入ったところにフリーペーパーを置いているところがあって。そういうところやドラッグストアなど、区立施設以外にも置いてみたら色々やっているというのを皆さんに知ってもらえるんじゃないかなと思いました。

**図書館** いろいろなご意見ありがとうございます。社会教育施設として図書館が取り組まなければならないものもありますし、地域との連携や子育て支援、青少年に向けた取り組みなど、これからも皆様のご協力を得て、できることからやっていけた

らなと思っております。

**図書館** それではお時間となりました。本日は様々なご意見ありがとうございました。利用者アンケートの結果、ならびに本日いただいたご意見はホームページでも公開させていただきまして、今後の図書館運営とサービスの向上に努めていきたいと思っております。

本日は本当にありがとうございました。